

学校外教育の活動タイプと支出格差

都村 聞人(神戸学院大学)

1. はじめに

本報告においては、学校外教育の活動タイプと支出格差について検討する。

学校外教育は、その活動内容から、スポーツ活動、芸術活動、塾等における学習活動、家庭における学習活動などに分類することができる。文部科学省「子供の学習費調査」(平成24年度)によれば、調査対象の子供に対して学校外活動費を支出している世帯は、公立学校に通っている場合、幼稚園 93.2%、小学校 99.0%、中学校 98.3%、高校 89.6%であり、多くの世帯が何らかの学校外教育活動を行っていることがわかる。

学校外教育を行うか否か、どのようなタイプの活動を行うかに関しては、次のような要因が関係していると考えられる。子どもの興味関心、保護者の子どもに対する期待・希望、保護者の文化的背景、家計のゆとり、中学・高校・大学等の受験準備、性別、都市度などである。その意味では、学校外教育に関しては、家庭の経済力だけでなく、ブルデューらが指摘する文化資本の影響なども介在する領域と考えることができる。

従来、学校外教育費の分析においては、調査データ上の制約から、塾、家庭教師、通信教育などの学習系の学校外教育とスポーツ、芸術などの習い事系の学校外教育をまとめて分析することが多かった(都村・西丸・織田(2011)など)。そのため、学校外教育の実態の詳細を把握することは困難であった。

そこで、本報告においては、「学校外教育費の支出格差はどのようなタイプの活動から生じるか」という問題にアプローチしてみたい。具体的には、

(1) 学校外教育活動のタイプによる学校外教育費の支出格差はどれぐらいか、(2) どのような活動が学校外教育費の格差を生んでいるか、(3) 所得階層による学校外教育費の格差に、学校外教育活動のタイプはどのように影響しているかという点を考察したい。

2. 使用するデータとその特質

本報告においては、ベネッセ教育総合研究所が2013年に行った「第2回学校外教育活動に関する調査」のデータを用いて分析を行う。

「第2回学校外教育活動に関する調査」は、3

歳～18歳(高校3年生)の第1子を持つ母親16,480名に対して行ったインターネット調査である。各学年について、男子を持つ母親515ケース、女子を持つ母親515ケースを対象とし、合計16,480ケースとなっている。

本調査においては、学校外教育活動を「スポーツ活動」「芸術活動」「教室学習活動」「家庭学習活動」(表1)に分類し、それぞれの活動別に活動経験、活動頻度、支出額等を調査している。「学校外教育の測定を精緻化」し、「子どもの活動を網羅的に調べた」(片岡(2010))ことにより、子どもの活動パターン別の分析が可能となっている。

3. 学校段階による活動タイプの変化

表1は、学校段階別に活動タイプの構成割合をみたものである。「スポーツ活動」「芸術活動」「教室学習活動」「家庭学習活動」の経験の有無をもとに、活動パターンを16タイプに分類している。この分類は、2009年調査を分析した片岡(2010)に依拠している。

未就学児においては、家庭学習活動のみのタイプ⑧が32.6%ともっとも多く、次いで家庭学習活動にスポーツ活動を加えたタイプ⑥が多くなっている(16.3%)。また、いずれの活動も行っていないタイプ⑩も1割程度いる。小学校1-3年生になると、家庭学習活動とスポーツ活動を軸としたタイプ⑥、タイプ②が全体の約3割を占め、全活動ありのタイプ①も8.6%と増加している。小学校4-6年生では、依然としてタイプ②、タイプ⑥、タイプ①が多いほか、教室学習活動とスポーツ活動を行うタイプ⑩も8.1%に増加している。

中学生になると、家庭学習活動・教室学習活動・スポーツ活動を行うタイプ②が20.0%ともっとも多い。本調査においては、部活動もスポーツ活動に含めているため、スポーツ活動の経験率が高いものと思われる。高校生においては、いずれの活動も行わないタイプ⑩が15.8%ともっとも多くなっている。学校段階が進むにつれて、活動タイプが変化していることがわかる。

4. 活動タイプ別の学校外教育費

1) 活動タイプ別学校外教育費平均支出額の変化
次に、活動タイプ別に学校外教育費の平均支出

額を比較した(図表は当日提示)。学校段階の上昇とともに学校外教育費が増加する活動タイプと、学校段階が上昇しても学校外教育費があまり増加しない活動タイプに分かれる結果となった。学校段階の上昇とともに学校外教育費が増加しているのは、タイプ①、②、③、④、⑨、⑩、⑪、⑫である。これらのタイプは表1が示すように、教室学習活動を経験しているタイプである。つまり、塾等に通っている場合には、学校外教育費が学年とともに増加するが、塾等に通わない場合は学校外教育費の伸びは小さい。

学校段階別にみると、未就学児～小学校低学年の段階では、多様な活動に取り組むタイプの支出額が多い(①②③⑨)。小学校高学年になると、活動タイプ別の支出額の差が大きくなり始める。教室学習活動を経験しているタイプ①、②、③、④、⑨、⑩、⑪が学校外教育費2万円以上と高額になっている。

中学生になると、教室学習活動を行うか否かによる学校外教育費の差が明確化する。教室学習活動を行っている場合、タイプ①②③④は3万円以上、タイプ⑨⑩⑪は25,000円以上と学校外教育費が高額となっている。また、教室学習活動のみのタイプ⑫も小学校4-6年生に比べると、支出額の伸びが大きい。他方で、教室学習活動を行わないタイプの学校外教育費はあまり伸びていない。高校生段階になると、この傾向がさらに明確化し、学校外教育費35,000円以上のタイプ①、②、③、④、2万円～3万円前半のタイプ⑨、⑩、⑪、⑫、17,000円以下のそれ以外のタイプに分れる。

以上のように、教室学習活動を行うか否かが、学校外教育費総額に大きな影響を与えていること、またその傾向は学校段階が進むほど顕著であることがわかる。

2) 活動別にみた学校外教育費の構成割合と増加率 いくつかの活動タイプを取り出し、構成割合を

表1 学校段階別活動タイプの構成割合

タイプ	単位: %					単位: %			
	家庭学習活動	教室学習活動	スポーツ活動	芸術活動	未就学児(3-6歳)	小学校1-3年生	小学校4-6年生	中学生	高校生
①	○	○	○	○	3.8	8.6	9.5	6.6	3.3
②	○	○	○	×	6.0	15.0	18.0	20.0	9.6
③	○	○	×	○	2.5	4.4	5.3	8.4	6.2
④	○	○	×	×	4.7	6.8	7.8	6.0	7.6
⑤	○	×	○	○	7.5	7.9	6.4	3.4	1.8
⑥	○	×	○	×	16.3	17.6	11.6	12.4	7.6
⑦	○	×	×	○	7.1	5.0	3.3	5.5	4.8
⑧	○	×	×	×	32.6	9.3	5.3	4.6	7.4
⑨	×	○	○	○	0.3	1.5	2.0	1.5	1.2
⑩	×	○	○	×	1.0	4.2	8.1	9.2	4.5
⑪	×	○	×	○	0.4	0.9	1.9	3.0	2.4
⑫	×	○	×	×	0.7	2.6	4.0	2.7	4.2
⑬	×	×	○	○	1.0	2.1	1.7	1.5	2.5
⑭	×	×	○	×	4.0	7.1	8.2	8.8	14.0
⑮	×	×	×	○	1.5	1.6	1.7	2.2	7.0
⑯	×	×	×	×	10.6	5.5	5.3	4.3	15.8

注1 各活動を行っている場合に「○」、行っていない場合に「×」とした。

注2 2009年調査の結果については、片岡(2010)を参照のこと。

検討した。詳細は省略するが、学校段階の上昇とともに、同じ活動をしていたとしても、学校外教育費の構成(とりわけ教室学習活動の割合)を変えることで、活動の重点を変化させていることがわかる。また、複数の活動をしているタイプであっても、学校段階の上昇にともない、教室学習活動に対する支出額の増加が著しく、家庭学習活動と合わせて、学習系の活動に重点的に支出していることが明らかになった。

5. 所得階層と活動タイプ

所得階層別に活動タイプを検討した。小学校4-6年生についてみると、世帯年収800万円以上の場合、タイプ①②③④の活動を行っているケースが、世帯年収400万円未満の層と比較して多い。800万円以上の層では、幅広い学校外教育活動を行っていることがわかる。他方で、世帯年収400万円未満の層においては、比較的成本が低い家庭学習活動を中心に行う、あるいは学校外教育活動をひとつに絞る、もしくは学校外教育活動を行わないというケースが多い。

また、所得階層別・費目別に学校外教育費支出を検討すると、活動のタイプが同じ場合の所得階層による費用の差は、教室学習活動を行っているタイプでは、概ね教室学習活動によってもたらされていることが明らかになった。

6. まとめ

学校外教育の活動タイプによる学校外教育費の差は、学校段階が進むにつれて大きくなっている。学校外教育費の多寡に影響を与えるのは、主として教室学習活動であり、学校段階の上昇にしたがって、教室学習活動への支出を増やした場合に学校外教育費は増加する。所得階層別に見ると、所得階層が高いほど、多様な活動を行い、所得階層が低い場合には活動が限定的である傾向にある。

この傾向は学校段階が進んでも同様である。所得階層が高いほど学校外教育費が多い関係が見られるが、活動のタイプが同じ場合の所得階層による費用の差は、教室学習活動を行っているケースでは、概ね教室学習活動によってもたらされている。